様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 19 日現在

機関番号：32690
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：22530518
研究課題名（和文）日本占領期アジアにおける大政翼賛運動の形成・発展過程に関する研究―ジャワの事例
研究課題名（英文）Formation and Development Process of Imperial Rule Assistance Association Movement during Japanese Occupation in Asia: A Case Study in Java
研究代表者　小林　和夫（KOBAYASHI KAZUO）
創価大学・文学部・准教授
研究者番号：00546129

研究成果の概要（和文）：本研究は，日本占領期ジャワにおける大政翼賛運動の形成・発展過程を分析することを目的とした．分析にあたっては，同運動の形成・発展過程を 3 つの時期―「胚胎期」「準備期」「展開期」―に研究課題を区分した．本研究によって，ジャワ奉公会と隣組制度の連動性が，地域住民の動員・統制・宣撫にきわめて大きな機能をはたしたことが明らかになった．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to analyze of the formation and development process of *Taisei Yokusan Undo* (Imperial Rule Assistance Association Movement) under the Japanese Occupation in Java, Indonesia. For analysis of this study, three periods in the formation and development process are divided: "embryonic period", "preparation period", and "expansion period".
This study concludes that linkage of *Tonari Gumi* (neighborhood association) and *Jawa Hokokai* (Java Public Service Association) played an important function for mobilization, control, and pacification of local residents at that time.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	960,000	3,560,000

研究分野：社会学・東洋史・日本史
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：大政翼賛運動・日本占領期・インドネシア・ジャワ奉公会・隣組制度

１．研究開始当初の背景

（１）基本的な問題関心

日本占領下インドネシアのジャワでは，日本の大政翼賛会を模して結成されたジャワ奉公会（1944 年 3 月～1945 年 8 月）によって，地域住民の動員・統制・宣撫がなされたことが知られている．

しかし，日本のインドネシア統治は，1942 年 3 月から開始されており，ジャワ奉公会設立までには 2 年間の時間差がある．この 2 年間に，日本軍政当局が実施した翼賛運動に関する政策を一瞥してみると，三亜運動，民族別諸団体・社会諸団体，民衆総力結集運動の存在が確認できる．

したがって，同時期のジャワにおける大政翼賛運動は，ジャワ奉公会だけでなく，ジャ

ワ奉公会設立前の三亜運動，民族別諸団体・社会諸団体，民衆総力結集運動にまで遡り，その形成・発展過程を俯瞰した分析が必要であった．

（２）先行研究状況

日本占領期ジャワにおける大政翼賛運動の形成・発展過程を詳細に分析した業績は，採択者の管見の限りでは存在しない．

たしかに，ジャワ奉公会に部分的に言及した研究は数多くある（岸・西嶋 1959，Anderson 1961，Kanahele 1967，Frederick 1989，倉沢 1992， Sato 1994，Hering 2002，Ethan 2003）．

しかし，これらの研究はいずれも，ジャワにおける大政翼賛運動の全体を俯瞰するまでには至っていないといううらみがある．

また，文献として使用されている史資料についても，本研究で探索をこころみるマイクロフィッシュ史料や，映像史料を含めたアーカイブズ史料などを渉猟し尽くしているとはいえなかった．

（３）本研究の着想

本研究の着想は，採択者が日本占領期のジャワで導入された隣組制度を分析している過程で得られたものであった．

採択者は，これまで，インドネシア現代史の３つの画期―日本占領期・スカルノ時代・スハルト新秩序体制―における官製住民組織の歴史社会学的研究をおこなってきた．これらのうち，採択者は，科研費を受けて行った研究で，日本占領期ジャワの隣組制度が事実上の上部組織であったジャワ奉公会と密接に連動することによって地域社会に浸透したことを確認した．

しかし，同研究では収集した史資料の制約もあり，形成・発展過程を含めたジャワの大政翼賛運動全体の詳細な分析には至らなかった．この瑕瑾を補うため，新たな史資料の博捜によってジャワにおける大政翼賛運動の形成・発展過程を俯瞰する研究を志したことが，本研究の着想の直接的な契機となった．

2. 本研究の目的

本研究は，上述のように先行研究では十全には解明されていない日本占領期ジャワにおける大政翼賛運動の形成・発展過程を分析することを目的とした．

本研究では，研究期間内に，日本軍政当局によるジャワの大政翼賛運動の形成・発展過程を，「研究成果の概要」に示した 3 期に分け，以下，共通・個別の研究課題を設定して分析を行なった．

（１）共通課題

各時期の運動（組織）が発足した歴史的背景と経緯，運動内容，組織構成，指導体制，他の組織との関係性，地域住民への影響，スカルノをはじめとする民族運動指導者たちの関与，軍政当局の鼓吹のあり方，運動（組織）の精神的基盤―がいかなるものであったか．

（２）個別課題

①ジャワにおける大政翼賛運動の「胚胎期」（1942 年 3 月～1942 年 12 月）―三亜運動が実施された時期，および，民族別諸団体と社会諸団体が結成された時期―

個別課題：民族別諸団体（華僑総会，アラブ委員会，インド・ヨーロッパ委員会，邦人報国会など）と，社会諸団体（東条授産会，防衛戦士援護会，青年団，警防団，婦人会，ジャワ医事奉公会，ジャワ教育奉公会，啓民文化指導所）のうち，とくに，日本の組織と類似している青年団，警防団，婦人会と日本の各組織の異同がいかなるものであったか．

②ジャワにおける大政翼賛運動の「準備期」（1943 年 3 月～1944 年 12 月）―民衆総力結集運動の発足からジャワ奉公会設立にともなう解消までの時期―

個別課題：ジャワ奉公会の直前まで行われていた民衆総力結集運動に，上述の民族別諸団体と社会諸団体が統合されていく過程，また，統合後の変容がいかなるものであったのか．

③ジャワにおける大政翼賛運動の「展開期」（1944 年 4 月～1945 年 8 月）―ジャワ奉公会設立から終戦までの時期―

個別課題：ジャワ奉公会が同時期に設立された隣組制度といかなる連動をしたか．また，両者の連動によって末端の地域住民の動員・統制・宣撫がいかにはかられたか．

３．研究の方法

本研究では，本研究と密接に関連した日本の大政翼賛運動および隣組制度に関する文献調査，オランダ，インドネシアにおけるアーカイブズ文書・史料の調査，公刊されている2点のマイクロフィッシュ史料の探索，日本占領期ジャワの主要紙のデジタル化によるテキストデータベースの構築と探索という4つの柱を中心に進めた．

４．研究成果

（1）学術的な特色・独創的な点

第一に，マイクロフィッシュ史料や映像史料を含めた新たな史資料の探索によって，ジャワ奉公会を中心とした日本占領下アジアの大政翼賛運動の形成・発展過程を俯瞰する先駆性が指摘できる．

第二に，ジャワにおける大政翼賛運動の「展開期」に関する研究で焦点をあてるジャワ奉公会と隣組制度との連動性の分析は，日本の都市社会学および地域社会学による町内会の歴史的淵源や「文化型」の議論に資する特色が指摘できる．

第三に，朝鮮の国民総力朝鮮連盟，中国・関東州の関東州興亜奉公連盟，同・満州の協和会，同・北支の新民会，台湾の皇民奉公会など，日本占領期の東アジア諸国の大政翼賛運動の研究にも比較の視座をもたらす萌芽性が指摘できる．

（2）研究の意義

近年，日韓（2002-2005 年，2007 年～）・日中（2006 年～）の間の歴史共同研究によって，客観的な近現代史の歴史認識の確認作業が進められてきている．

こんにちまで，日本とインドネシアの間では同様の共同研究は実施されていないが，本研究は，今後，インドネシアの日本占領期研究者に新たな知見を提供し，隣接領域をふくめた両国間の比較歴史研究の先鞭をつける可能性がある．

また，本研究は，これまであまり検討される機会のなかった日本国内と日本の占領地における大政翼賛運動の比較研究という新しい領域を開拓する意義を有する．

（3）本研究の知見

本研究によって，ジャワ奉公会と隣組制度の連動性が明らかになった．また，両組織の連動にあたって，ジャワ軍政当局は，大政翼賛運動の基礎となる住民の動員と統制をはかるために西欧の個人主義や自由主義などの精神的態度を厳しく排撃しながらも，インドネシアやジャワの本源的な「伝統」に回帰することを同時に要請していたことがわかった．

日本占領期ジャワの軍政当局は，ジャワやインドネシアの人びとが首肯するような了解性を確保しながら大政翼賛運動を展開していたといえる．同時に，日本占領期ジャワにおける大政翼賛運動は，日本軍政の支配に適合的な権力性を強く刻印しながらも，インドネシアやジャワの人びとの了解性も同時に担保するきわめて精妙な「教育的占領」によって遂行されていたことがうかがえた．

日本占領期のジャワにおける形成・発展過程を3つの時期―「胚胎期」（三亜運動が実施された時期，および，民族別諸団体と社会諸団体が結成された時期），「準備期」（民衆総力結集運動の発足からジャワ奉公会設立にともなう解消までの時期），「展開期」（ジャワ奉公会設立から終戦までの時期）―に区分した総合的な研究はこれまで行われてこなかった．この点で本研究の先行研究に対する貢献は小さくない．

今後は，ジャワだけでなく，スマトラやバリなどのインドネシアの他の諸地域，さらには他の東南アジア諸国の占領地を含めた比較研究が求められる．

文献

Anderson, Benedict, R.O’G., 1961, Some Aspects of Indonesian Politics under the Japanese Occupation: 1944-1945. Ithaca: Cornell University.

Ethan, Mark, 2003, Appealing to Asia: Nation, Culture, and the Problem of Imperial Modernity in Japanese-Occupied Java, 1942-1945. Ph.D. dissertation, Columbia University.

Frederick, William, 1989, Visions and Heat: The Making of the Indonesian Revolution, Athens: Ohio University Press.

Herring, Bob, 2002, Soekarno: Founding Father of Indonesia 1901-1945, Leiden: KITLV Press.

Kanahele, George S., 1967. The Japanese Occupation of Indonesia: Prelude to Independence. Ph.D. dissertation, Cornell University.

倉沢愛子，1992，『日本占領下のジャワ農村の変容』草思社．

岸幸一・西嶋重忠，1959，『インドネシアにおける日本軍政の研究』早稲田大学大隈記念社会科学研究所編　紀伊國屋書店．

Sato, Shigeru, 1994, War, Nationalism and Peasants: Java under the Japanese Occupation 1942-1945. New York: M.E. Sharpe.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計１件）
① 小林和夫，「日本占領期ジャワにおける『教育的占領』の機制―大政翼賛運動をめぐる『カナジャワシンブン』の記事を分析対象として」日本社会学会，2011年9月17日，関西大学

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　和夫（KOBAYASHI KAZUO）
創価大学・文学部・准教授
研究者番号：00546129
(2)研究分担者
なし